

競技上の注意

審判長 渡部 誠治

1 適用ルール等について

- (1) 平成29年6月1日改定・実施の日本卓球ルールを適用して実施する。
- (2) 試合は全て5ゲームマッチで行う。

2 ボール・ラケット・ラバー等について

- (1) ボールは日本卓球協会公認プラスチック球「40mmホワイト」を使用する。
(ニッター、TSP、バタフライ)
- (2) 外国製ラケットで、JTAAのマークが無いものを使用する場合は、競技開始前に審判長の許可を得なければならない。
- (3) ラバーの接着には必ず日本卓球協会公認の接着剤を使用し、接着剤やラバークリーナー等に揮発性有機溶剤を含むものを使用してはいけない。
- (4) 接着剤を含むラバーの厚さが4.0mmを越えるものや、ラバー表面の平坦性が損なわれているラケットは使用できない。

3 ラケット検査について

- (1) 大会期間中、いくつかの試合においてラケット検査を行う。ラケット検査は主に試合前に行う。試合前の検査で違反と判断されたラケットは大会終了まで審判長が保管し、選手は別のラケットで試合を行う。この場合、使用したラケットをその試合終了後に検査する。試合後の検査で違反と判断された場合、その選手は負けて相手の勝ちとなる。

4 服装について

- (1) 競技用服装（シャツ、ショーツ、スカート）は、日本卓球協会公認のマークがついたものを着用する。
- (2) 対戦する選手は、互いに区別できる程度に異なった服装でなければならない。
- (3) ダブルスを組む選手は、同じ服装で競技しなければならない。ただし、ショーツ、スカートについては同系色であれば着用できる。
- (4) ゼッケンは平成29年度の日本卓球協会指定のものをつけること。

5 競技の継続とバッドマナーについて

- (1) ポイントが決定した後は、速やかに次のサービスの体勢、あるいはレシーブの体勢をとり、みだりに時間を取ることなく、競技の継続性を図ること。直ちに行動に移さないときは「スロープレー」としてバッドマナーと判断される。
- (2) 競技者、アドバイザーのバッドマナーに対しては、競技ルールに従ってペナルティーの対象となる。
- (3) 競技者または組は、試合開始前に主審に登録された1名のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。

6 ボールの破損について

- (1) ラリー中の破損については、プレーに影響があると主審が認めた時はレットとする。
- (2) ラリー終了後に選手が破損を申し出た場合については、プレーに影響があると主審が認めた時はレットとする。レットとしない場合でも割れていた場合はボールを交換する。

7 その他

- (1) プログラム及びタイムテーブルにより、試合コートへは遅れないように入ること。
- (2) 進行の都合上、予定コートや開始時間を変更することがあるので、放送には注意すること。
- (3) 競技場内で携帯電話等の通信機器の使用は禁止する。特に、選手やアドバイザーが試合中に競技領域内（ベンチも含む）において使用した場合はバッドマナーと判断される。